

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



雲東分教会

昭和63年11月26日 設立
昭和63年12月9日 鎮座祭
昭和63年12月10日 奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践
項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



教祖140年祭

立教188年
3月号

学生層育成者講習会
開催
学生担当
委員会

2月21日、学生担当委員会(上原繁次委員長は、「学生層育成者講習会」を開催し、本部学生担当委員会より、岩井大輔委員の出席があった。

岩井委員は、自身のエピソードを交えて、育成者の姿勢の大切さ、学生層の特性、学生生徒修養会の素晴らしさなどについて講話を行った。

参加者は、様々な経験を通して、教祖を求める講師のお話に、熱心に聞き入っていた。

(講話内容は次の通り)

▼育成とは憧れ

学生担当委員会人材育成部で御用を務めさせていただいている桜井大教会部内、伊都分教会長の岩井大輔と申します。本年、学生担当委員会が掲げました基本方針の「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」をテーマにお話しします。

育成とは何でしょう？ 辞書には、「育てて立派にすること。」とあります。ではそれは一体どうしたらいいの



自らの育成の姿勢をお話し下さる

でしょうか？

5年前、青年会長中山大亮様から青年会本部の育成部の部長を拝命いたしました。その時にこんなことがありました。部内教会の信者子弟の娘さんが中学校に入った頃からお琴を始め、3年生になった頃には立派に勤めることが出来るまでになりました。これはすごいと本人に聞くと、「お姉ちゃんが中学校に入った時にお琴を始めたのを見てかっこいいと思っていた。だから私も中学校に入った絶対にお琴する、と頑張った。」と言いました。この時、育成とは憧れである、と彼女から教えていただきました。確かに彼女の2つ年上のお姉ちゃんは中学校に

入った頃からお琴を始め、一生懸命にそれは楽しそうに嬉しそうに勤めてくれました。その姿が妹の彼女をお琴の前に自らを進ませたのだと思います。

自分自身を振り返ってみても、いつも神名流してる先生、おてふりの指先が綺麗な先輩や器の大きい先生、自分もそうなりたい、そういう憧れが今の自分を育ててくれたのだと思います。

▼日々の姿が映る

大切なことは嬉しそうな顔や喜びの言葉、楽しんでる姿を見せることです。教会につながる若い人たちと話す時、「あの先生って無口ですけど、いつもどこかでひのきしんされてますよね?」「あの奥さんの口から人の悪口陰口聞いたことない。むしろ絶対どこかで人のことを褒めておられますよね。」「あんなニコニコした、おばあちゃんに私もなりたいです。」とか、そういう言葉をよく耳にします。

学生層の子たちはこれからお道を通っていくのかどうか、またどんな風に通っていったらいいのか、迷い模索している真つ只中です。そんな時に道の先輩はどんな毎日を送っているの

か? 信仰生活とはどういうことか? 私たちの日々が見本手本、そして判断の基準なんです。そこで、私自身が肝に命じていることが1つあります。

だいぶ昔の講習会で聞いた本部員講話が「子供の前で本部や大教会、上級部内信者さんとかそういう文句を聞かすな言うな」という内容でした。その本部員先生は教務を終え、おちばから教会に戻ると、つい「あんなこと言っていた。会議が長かった。」と文句をだらだら言ってしまった。

ある時、おちばへ出発しようとしたら玄関で娘さんが

「おちば行くのやめとき。お父さんの嫌いなおちば私も嫌い。」と言った。これはえらいことになった、お父さんおちば嫌い違うと、取り繕っても全く後の祭りだったそうです。

だから私は子供達に「大好きなおちば行ってきたよ。」「大好きな大教会楽しかったよ。」と言って勤めていきます。もちろんそう思えない時だってあります。それでも努めてそう言うことによつて、子供たちは今度一緒に行きたいと、そういう風に言ってくれます。子供たちがや大教会、上級や部内の教会が素晴らしいところだと感じ、育

つのは本当に大切なことだと思いま
す。

さらに学んだことがもう1つありま
す。青年会本部に在籍中に人材育成の
勉強会がありました。講義が終わって、
その先生は

「お疲れ様でした。9時から5時まで
私の話を聞いていただいてありがとうございます
ございます。疲れたでしょ？ 教会に
帰ったら何て言いますか疲れた！と
言うでしょ。疲れているのはよく分か
りますが、それは置いといて青年会行
かしてくれてありがとうございます。留守中、信
者さん来られた？ おさづけしてくれ
た、子供ら風呂入れてくれた、おかげ
で勉強会行って有意義やった、ありが
とう。というありがたいのお土産はど
うでしょう？ 留守中、頑張つてよかつ
たなど、きつと思います。これがその
姿を見ている子供達や住み込みさんに
対する最高の人材育成だと私は思いま
す。」と仰いました。

でも重要です。声は肥やでと言われる
通り、特に言葉は大切です。肥とは作
物が育つために用いるものです。人が
育つためには、言葉が本当に大切だと
気付いた出来事がありました。教会の
青年さんとそのご両親と夕づとめの後
にかしものかりものの本を読んで1日
の振り返りをします。ご両親は「この
体もつと借り物と思つて使わせてもら
わなあかんと思います。」と、関西弁
独特ですが何々せなあかんと言いま
す。ある時、青年さんと2人きりになつ
た時に彼は「この信仰つてせなあかん
ものなんですか？」と聞いてきました。
確かに心を定めて時期を仕切つて勤
めさせてもらわなあかん時はもちろん
あります。でも常日頃常時ではありま
せん。私たちの信仰はさせていただく
信仰だと思えます。

それから「何々せなあかん」を「何々
させてもらいたい」に言葉を変えてみ
ました。すると雰囲気が大変明るくな
りました。私たちの明るい言葉や笑顔、
という信仰姿勢を通してお道は素晴ら
しい、楽しい、喜びの道であるいうこ
とが、次の世代に伝わるように頑張つ
ている今日この頃です。

▼伝える人から伝わる人へ

そうやって、私たちは信仰の喜びを
次の世代に伝えたいと心から思います
し、急務だとも言われますが、10伝え
たいものあれば1伝えるのも大変です
し、本当に苦労します。その中で、
「伝える人から伝わる人になりましょ
う」と青年会長様から仕込んでいた
きました。

数年前の事、学修の塾長先生と第一
食堂でお昼ご飯のカレーを頂きました
た。私は幼き頃、今日食べるものがな
いという道中を事情教会復興に奮闘し
ていた両親に育ててもらいました。子
供たちにだけ端パンを与えて両親は水
だけで過ごす、そんな日が何日もあつ
たそうなので、食べ物に関する仕込み
はめちやくちや厳しいものでした。父
は「食べ物は何やぞ。牛さんのお米さ
んの玉ねぎさんの全ての命を頂いて、
私たちの命がある。世界には食べたく
ても食べられなくて、命を落としてい
る人たちがたくさんいる。命を大切に
するんだよ。」とよく仕込んでくれま
したので、自分自身は誰よりも食べ物
を大切にしているという自負がありま
した。食後、塾長先生のお皿を見ると
お皿舐めたんかな？ というぐらい綺

麗でした。わあ！ 私よりも食べ物
大切にされる方がいる！と感動しま
した。

大きな教会の会長さんでしたが、大
きな教会であろうが、小さな教会であ
ろうが、また、どんな立場であろうが、
私たちは教祖から「葉の葉一枚でも、
粗末にせぬように。」(逸話篇112一に
愛想)と仕込んでくださった、そこを
目指すことに何も変わりはないとい
うことを知りました。実はその方が今
の学担の委員長の清水慶政先生でした。

▼教祖殿に心をつなぐ

その清水塾長先生は当時スタッフ
に、「おちばに在る間に時間を作つて
は教祖殿に足を運びなさい。1回が2
回、2回が3回、と足を運びなさい。
そうすることによって見えない教祖の
色がだんだんと濃くなっていく。足を
運べば運ぶほど、あなたにとつて必要
な時に必要なタイミングで必要な人
を通して、あなたに1番必要なことを教
祖が伝えてくださるから、教祖殿に足
を運ぶんだよ。」と教えてくださった
ので、私たちスタッフは自分はもちろん、
期間中は学生を連れて一生懸命教
祖殿に足を運びしてもらいました。

▼声は肥

私たちの言葉や姿は育成においてと

学生は「さつき行ったとこやん！」
 と言っていました。アンケートには「何
 であんなにいっぱい教祖殿に行くんや
 ろって思ったけど、終わって今は教祖
 がちよっと前より身近になったような
 気がします。」そんな言葉を書いてく
 れました。

私は年祭を会長として始めて迎えま
 すが、まずは教祖につながらせてもら
 おうと1つ心を定めました。

おちばに帰らせて頂いた時だけでは
 なくて、それこそ世界中どの教会に
 も教祖はお出ましで、また教会でなく
 とも教祖は心に念ずれば、そこに教祖
 はお出ましくださるんだから、とにかく
 教祖に心をつなぐというのが第1番
 目の心定めでした。

私は清水塾長先生に信仰を変えてい
 いただきました。

伝える人から伝わる人になるには、
 日々をひながたにある言葉遣いやひな
 がたにあるものを大切に作る姿、教祖
 のような日日をどれだけ通るか、それ
 が伝える人から伝わる人へと成長でき
 る大きなポイントだと学びました。

▼学修はすごい

学修にはダメで元々、とにかくお誘

いの声をかけていただきたいです。参
 加するかしないかは神様の世界です。
 ただ、本人と神様を繋げるパイプ役、
 これが私たちの御用だと思えます。

すごいです、学修は。なんでひのき
 しんせなあかんねん、と言ってた子が
 ニコニコしてひのきしんに励んでくれ
 ます。仲間がいるからです。おつとめ
 大嫌いや、と言ってた子が一生懸命お
 つとめに向かってくれます。仲間がす
 るからです。最終日には涙を流して、
 またおちばに帰ってくる約束をして
 別れていきます。こんな涙を流す若者、
 あまり見かけませんが、学修ではたく
 さんいます。

昨年、自教会から大学の部に1人参
 加してくれた男の子A君がいます。10
 数年ぶりのおちばに帰って、おそらく
 おつとめもできないであろうA君が学
 修の感話大会で次の様に語りました。

「(中略)学修に参加しての感想は今生
 きて生活できるということに気付いた
 ことです。天理教について学ぶことは
 今までなかったけど、今後や今にかけ
 る思いや、物に対して深く考えること
 が出来るいいきっかけになり、真心愛
 情を持ち、気づきや感謝を親神様に伝
 えたいと思いました。」



テーマ毎に分かりやすく話し下さった

天理教を学ぶ前は少し抵抗があった
 けど、おつとめを通して、親神様から
 体をかしたしてもらい日々の生活が楽
 しくても辛くても感謝をしていくべき
 だと思いました。

あまりにも天理教が広く、大きいと
 改めて感じました。学修を今後とも感
 謝すべきであることを心に残し、ご縁
 のあることも親神様に感謝していきたく
 いと思えます。」

信仰家庭で育っていないA君、初め
 てのおちばでの生活で、ここまで親神
 様のご恩が分かるようになってくれ、
 感動しています。学修はすごいです。
 親神様、教祖に見守られながら若者同

士が集まって磨きあっていく世界最高
 峰の育成行事だと私は思っています。
 ちなみに、本年3月の大学の部のテー
 マは教祖です。まだ間に合いますので、
 声をかけていただききたいです。

▼声をかける

昨年、遠方の巡教に当てていただい
 た時に、毎年学修の参加人数が多い教
 会が通り道にあつて移動日に参拝をさ
 せていただきました。

会長さんとお合いして話を伺うと、
 前会長さんの時代から50年学修の声か
 けを続けて、今は老いも若きもみんな
 学修と言ってくれるようになった。学
 修に参加した高校生、大学生が「あん
 たら高校生になったら絶対学修行くん
 やで、むちゃくちゃ楽しいからね。」
 という口コミで今はこうなつたと教え
 てくださいました。

早速私は教会に戻ってから500回ぐら
 い習字を書いて、「学修に行こう。」こ
 れを神殿に飾りました。これから50年
 間、先々を楽しみに学修と言いつつ
 うと心に定めました。

声をかけると奇跡が起きる事があり
 ます。声をかけないと絶対に起きませ
 ん。

学生時代、春学にお誘いした神社の友人、新潟に進学してキャンパスで3人組の女の子横を通ったら、「おちば」という単語が聞こえてきて、「俺、最近そこ行つたよ。」と、その中に割つて入ったそうです。「おちば」と言ったのは石川県にある教会の娘さんで、数年後2人は結ばれて今茨城県で夫婦で暮らしています。休みの日は彼が運転して石川県の教会の月次祭に帰つて、この前はちゃんぼんをつとめたそうです。

声をかけるところとして素晴らしい先々の楽しみを見せていただけです。どうぞ育成の場として、学修をさらに力強くご活用いただきますようお願い申し上げます。

▼育てる側の強い意志

さて、真柱様は学担発足30周年記念の担当者大会の席において、

「道に外れたる心で育てようと思うた処が育たん。」(明治33・1・4)というおさしづを用いて、「人を育てるには育てる側の強い意志がなければなりません。」

そして、何よりも育てるものの、心の置き所が問われます。どのような人

に育てたいのか、何を伝えたいのか、あやふやなことでは育てられる側も困惑するのであります。」
とお仕込みくださいました。おさしづや真柱様のお言葉のように、お道の教えという枠の中で、はっきりとこうなつてもらいたい、こうするんだという言葉や態度行いを持って信仰を伝え、育てていく、強い意志が大切だと気づいた出来事がありました。

先日、警察犬訓練所の様子を目にした。

警察犬訓練所のワンちゃんは広い敷地の中、起床時間が決まっています、訓練の時間が決まっています、消灯の時間もきつと決まっています、と思いません。でも、その訓練場を卒業すると、人のために嗅覚を使って一生懸命尽くしたり、犯罪を取り締まったり、瓦礫の下から人を助け出したりして、人の役に立って人に愛されて、人に食べるものや住むところを保障されて生きていくんだらうな、と思いました。

私たちが育てさせていたたくのはワンちゃんではありませんが、訓練師さんは先々この子たちが人の役に立てるように幸せになれるようにと思つて育てている、その心は私たちと同じだと

思います。

幼い頃から両親に本当に色々と仕込んでもらいました。おつとめをするんだよ、ご飯粒は残さないんだよ、人よりに先に元氣よく挨拶をするんだよ。大人になつてからは礼儀作法、教祖のひながた、理の思案、いろんなことを仕込んでくれたのは、私を立派な用木に育てようという一生懸命な努力だったのだと今は分かり、本当に両親に感謝をしています。

少し昔の話、長男が3歳を迎える春、こども園に入れていただくことになりました。夫婦で話し合い、園で使うカバン4千円、買ったと思つて教祖におたすけに使つていただくことになりました。入園式の朝、入園御供とカバン御供というお供え袋2つを彼に賽銭箱に入れさせて参拝をしました。彼はその当時ちょうどおばさんにもらつたアンパンマンのリュックで園の生活がスタートをしました。

それから、数ヶ月経つた全くそのことを忘れていた夏の頃、突然見知らぬ女性が教会を訪ねてきました。「子供さん、カバン探してはりますよね?うちの子が4年間使つたお古ですけど。息子さんだけ、みんなと違う鞆やつ

たから気になつて。」と持つてきてくれました。わあ、ありがとうございませす、と受け取つて長男に「園のカバンくださったよ。」と言うと、長男は私の持つカバンに猛烈ダッシュでタックルして頬ずりして「やつたー、やつたー。みんなと同じや。ありがとう!」と言いました。

ああ、こんな幼い子も教祖のひながたと共にたすけ一条の道を通つてくれている、と親はその姿を見てすぐ胸が熱くなりました。そして何よりお礼が言えたと思ひました。

それから長男は3歳の子供がこんなに物を大切にするかと思うぐらい、そのカバンを4年間大切に大切に使つてくれました。これは4千円で新品を買つて与えていたらこんなことはなかつた。彼は教祖から物を大切にできるといふ徳をつけていただいたんです。この徳は4億円でも買うことはできません。物を大切にできる子はこれから物に守られて物に愛されて物に困ることなく生きていける、こんなありがたいことはありません。

これが教祖のお導き、信仰なのだ気付かせていただきました。私たちは教えという枠の中で、子供たちや後に続

く若者を一生懸命導き育てていくということが大切で、育てる側の強い意志が最も大切だと確信します。

▼つなぎの理

自教会には私より若い会長さんが4人いるのを筆頭に教会長子弟が50人以上いて、誰1人として信仰から遠のいていません。みんな都合をつけて、月次祭に参拝してくれます。土日が月次祭になりますと、同窓会のように集まり仲良くやってくれています。理由は金銭縁談よろづつなぎの理である「くにさづちのみこと様」のお働きにあると確信をしています。御供の心意気がすごいのです。部内の会長さん奥さんがすごいのです。

・この節目に車売って御供させてもらいました。今は妻とくつついてカブに乗って、めちやくちや仲良くならしました。ありがたいです。

・うちはお風呂2日に一度にしました。お風呂を子供らが喜んでね。それが楽しみでありがたいです。部内の会長さん、誰もさせられてない、自ら喜びの道を進んでいます。

桜井大教会には年に4度、御恩報じの仕切りがあります。12月の仕切りは

特に目一杯御供をさせてもらいましょう、というそんな素晴らしい信仰実践が長い間受け継がれています。

御供はもう何も無い、あとは神様お任せしましたと、みんな励まし合つて助け合つて、喜んで運ばせてもらうものである事を親々から見せていただいて今も残っています。今日も元気だよ、今日もご飯食べられるよね、今日も兄弟仲いいよね、ありがたいね。親神様、教祖のおかげだよ、もったいない、という雰囲気は親の姿から滲み出ているのを子供たちは見ているのだと思います。だから子供たちもよく御供をしてくれます。

ちよつとした節目に少しでも運ぶ、親々がつないでくださったおかげで、今日の私があります。私たちが先に教祖につなぎをつける事で、教祖が若者たちをつないでくださる、御供は絶対間違いないと私は確信をしています。

▼まとめ

お話を3つにまとめさせていただきます。

1 育成とは憧れだと思えます。明るく勇んだ喜びの言葉が大切です。私たちが憧れてきた先人や先輩の

ようになれるよう、まず自らを育てます。特に言葉遣いには気をつけて、明るく勇んだ言葉を使い、不足の言葉、陰口、悪口は慎みます。伝える信仰者から伝わる信仰者を目指します。

2 チャンスを見て学修や春学お誘いの声をかけていたきたいです。先々を楽しみにお誘いというチャンスをしつかりと利用して、若者に声をかけて繋がりを持つて欲しいと思います。

またSNS見たよとか、〇〇分教会の子やね、頑張ってるね。お父さんにお世話になってるよと、声をかけてあげて欲しいんです。私たちもいろんな先生から声をかけていただいて、見てくれているのだと思うだけで嬉しく思いました。笠岡の皆様全員で若者を育てていくんだという世界観が生まれてきたらありがたいなと存じます。若者に声をかけるのは勇気のあることです。同じように信仰には勇気のあることがたくさんあります。にをいがけ、おさづけ、お尽くし。思い切る、その勇気の先に必ずご守護を頂戴できると、教

祖から約束していただいといます。

3 最後3つ目。教えの中で育てる。そしてたすけられた姿を見せる。私たちが喜んで信仰していることが最高の手本です。

不平不満や他人の欠点を探し否定することは、今の世の中が教えてくれています。でも喜び方は教えてくれません。どんな節の中でも教祖を頼りに通つておられる姿や、あの節のおかげで今がある、たすけられたのだという姿。このお道を通つていたら、あんな風に幸せになれるのだと感ずることが何事にも代え難い信仰モデルだと思います。おさしづに「育てるで育つ、育てにや育たん。」(明治22・9・24)とあります。育つとは自分を変えること、言葉を変え、受け取り方を変え、行いを変え、考え方を変えることです。

真柱様が「育てるものが育つことによつて初めて人を育てられるのであります。」と教えてくださったそのお言葉を信じて、年祭活動の3年目の尊き旬を先々を楽しみに真実の種まきを共に勤めさせていただいたら幸いです。

(以上要約…委員 杉原善朗)



上原きよ子 前支部長



上原愛美 支部長

**直轄委員部長・
委員研修会 開催
婦人会**

婦人会笠岡支部(上原愛美支部長)は、2月23日、大教会で「直轄委員部長・委員研修会」を開催し30人が受講しました。
座りづとめの後、支部長様は、真柱

婦人会笠岡支部(上原愛美支部長)は、3月2日、「ホットテラス」オトナの女子会 vol.2」を大教会で開催した。
今回で2回目の開催となったこの行事には、20代から40代の女性、16人が参加した。午前中は「ワールドカフェ」班に分かれて、自分の事やこれからの事などについてお互いに語り合い、この先やってみたいことについて意見をシェアした。じっくり話す時間を持つ

**ホットテラス 開催
婦人会**

午後からは、6月22日の婦人会総会に向けておつとめ練習をさせて頂きました。(常任委員 吉岡八恵)
様・婦人会長様・大教会長様のお言葉も引用されながら、これからの婦人会活動の進め方について、「共に成人の道を歩む仲間を増やしていくことが重要」とお話し下さいました。続いて前支部長様のあいさつがあり、その後対話形式でお話をふりかえり、それぞれ今年度の心定めをして研修会を終えました。



ワールドカフェ



ランチタイム風景

ことができ、和やかに楽しい時間を過ごした。



料理

その後のランチタイムでは、婦人会スタッフが腕によりをかけて作った色とりどりの品々に、身も心も満たされ、笑顔溢れる時間となった。
参加者らは、同じ笠岡につながる同年代同士で、心がホッとするとときを送った。(委員 上原宏恵)



オーストラリアからのご夫婦に
お道のお話を



アメリカからの家族と友達になる

広島平和公園で
外国語パンフレット配布

海外部

海外部(上原志郎部長)は3月8日(土)、広島平和公園へ外国語のパンフレットを持ち、にをいがけに行きました。公園に到着し、まずはおちばに向かい世界平和を願ってよろづよ八首をおどらせて頂きま

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・ 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・ 食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。

した。その後、参加者6人2グループに分かれ、約1時間公園内を歩き、9か国14グループの人たちに声をかけさせて頂きました。まだ冬の寒さ残る気候でしたが、海外の方との楽しい会話の内にとっても暖かな気持ちになり、この場所から少しでも陽気ぐらしの種を世界に蒔くことができるとにをいがけさせて頂きました。(部員 鳥井悠 加)



私が教会長のお許しを頂いたのは丁度、教祖140年祭始めの年で、その前から自分に身上や事情をお見せ頂いて、自分なりに葛藤や自問自答しながら、どうしても自分中心に流れてしまいう祭活動三年千日の1年目が過ぎ、2年目もあつという間に過ぎてしまったと実感したのが本心でした。それから年祭活動仕上げの年どうしたら良いのか分からず、また毎日の仕事や日常が過ぎて行つた先月の2月の大教会の月次祭の朝、妻から電話があり、最近体調不良が悪化していた妻は本日の参拝に行けないと言つていたのに又、1年前に圧迫骨折で入院されていた信者さんが家族の都合から半年以上音信不通だったので、その2人が参拝させてもらおうと連絡がありました。とてもびびりして急な事で驚きました。後々で、家族と話しをした時に、親神様が何も実行出来ない私に年祭最後の旬に頑張れと背中を押して下さっているのだと思ひました。こんな不甲斐ない自分でも親神様、教祖は見放さないで下さっている事を話し合いました。その事から改めて教祖140年祭、三年千日3年目の仕上げの年、何とか前を向いて一杯頑張つて行きたいと思ひます。(う)

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には 「いちれつ」のこともがかはいそれゆへに いろ／＼心つくしき
るなり」と 親心溢れるご守護によって結構にお連れ通り下さっております
事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げ
つつ 世界いちれつたすけたいとの親心にお応えするべく たすけ一条の御用
の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は これの教会にお許し下された二月の月次祭を執
り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心も一入に
明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを つとめさせて頂きます 御前には
立春を過ぎたとは言えまだ寒さ厳しき中をも厭わず 今日の日を楽しみに寄
り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御
礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い
申し上げます

さて今月来月と部内巡教をさせて頂いております 年祭活動三年目締めく
くりの一年を 陽気な心人をたすける心で通ることを伝え 成人の歩みを進め
させて頂きます

また本日は祭典に引き続き学生層育成者講習会を開催致します 我々一人
一人がそれぞれの持ち場立場で若人を教え導いていくんだという気概を持つ
てお話を聞かせて頂き しつかりと胸に納め育成の糧とさせて頂きたいと存
じます

何卒親神様には 親孝心一筋に精一杯勤め切る皆の誠真実の心をお受け取
り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り お望み下さる陽
気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお願いの程を 一同と共に慎
んでお願い申し上げます

立教百八十八年 二月月次祭 祭典役割表

祭主		祭主		指図方		賛者	
大教会長様	吉岡誠一郎	横山逸郎	内海史郎	杉原善朗	上原志郎	内海史郎	杉原善朗
講話	学生層育成者講習会	四月講話	武内正美				
役割	区分	坐り勤		前半		後半	
		門脇元教	森本忠善	杉原善朗	横山逸郎	谷内伸自	田中隆之
地	方	大教会長様	前会長様	前会長様	浅野弘実	上原志郎	高木昭祥
		上原繁道	大教会奥様	武内正美	吉岡八恵	田中つかさ	上原千枝子
おつとめ	をどり	前奥様	田中ますみ	山野なつ	吉岡八恵	田中つかさ	上原千枝子
		赤木素志	内海史郎	赤木素志	吉岡誠一郎	赤木素志	吉岡誠一郎
ちゃんぽん	笛	赤木素志	内海史郎	赤木素志	吉岡誠一郎	赤木素志	吉岡誠一郎
		佐藤道孝	田林久嗣	赤木素志	吉岡誠一郎	赤木素志	吉岡誠一郎
拍子木	太鼓	佐藤道孝	田林久嗣	赤木素志	吉岡誠一郎	赤木素志	吉岡誠一郎
		中村剛	中島誠治	赤木素志	吉岡誠一郎	赤木素志	吉岡誠一郎
すりがね	小鼓	中村義太郎	吉岡壽	高木昭祥	岡崎真一	佐藤真孝	岡崎真孝
		中村義太郎	吉岡壽	高木昭祥	岡崎真一	佐藤真孝	岡崎真孝
琴	三味線	上原順子	内海繁次	岡崎真孝	岡崎真孝	岡崎真孝	岡崎真孝
		上原順子	内海繁次	岡崎真孝	岡崎真孝	岡崎真孝	岡崎真孝
胡弓	三味線	今川佐智子	横山小智榮	室悦子	高木孝子	室悦子	高木孝子
		今川佐智子	横山小智榮	室悦子	高木孝子	室悦子	高木孝子

立教188年 定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣 町	2月13日	中島誠治	御 野	2月 8日	杉原善朗	簸ノ川	3月10日	上原繁道
福 廣	2月 7日	山野弘実	香地華	2月 9日	浅野明教	多古浦	3月13日	森本忠善
福 勇	3月11日	武内正美	真 金	2月11日	大教会長様	瑞 北	3月 9日	田林久嗣
福 芦	2月 9日	上原繁次	稻 倉	2月13日	佐藤真孝	雲 東	3月11日	森本忠善
福 満	2月 8日	武内正美	稻 瀬	3月 5日	大教会長様	神 村	2月10日	中島誠治
福 岩	2月12日	佐藤真孝	稻富士	2月15日	浅野明教	大江橋	2月 5日	門脇元教
西 村	2月10日	武内正美	稻 讚	2月10日	岡崎真一	品 治	3月 7日	吉岡誠一郎
福 年	2月 7日	今川昌彦	門司港	2月12日	岡崎真一	鶴 眞	3月10日	山野弘実
福 昭	2月11日	横山逸郎	大恵山	2月12日	田中隆之	作 備	3月 6日	杉原善朗
福富士	2月10日	上原繁道	東水島	2月10日	山野弘実	錦ヶ原	2月 3日	大教会長様
福 東	2月 9日	大教会長様	高児島	3月 5日	吉岡誠一郎	眞 府	2月 9日	田中隆之
東福山	2月 6日	上原繁次	高 丸	2月 6日	前会長様	吉 舎	2月 4日	門脇元教
福 南	2月13日	武内正美	出 雲	3月11日	上原繁道	上小畠	2月10日	田中隆之
福 節	3月 8日	横山逸郎	瑞 雲	3月 6日	今川昌彦	木津和	2月 6日	門脇元教
福 輝	2月13日	大教会長様	海潮川	3月 7日	大教会長様	國 須	2月 7日	上原繁次
坪 生	3月 5日	田中隆之	米 府	2月15日	上原繁次	上吉野	2月12日	吉岡誠一郎
八 尋	3月10日	上原繁次	弓ヶ濱	3月 8日	虫明立生	上 備	2月 8日	佐藤真孝
芦 品	3月13日	田中隆之	西 伯	3月 9日	虫明立生	河 佐	3月 4日	中島誠治
安 那	2月 8日	上原繁道	米 美	3月 5日	今川昌彦	上川邊	3月12日	吉岡誠一郎
芦田川	2月 3日	浅野明教	照 雲	3月 6日	大教会長様	甲 井	2月 3日	森本忠善
三 郡	2月10日	浅野明教	松 都	3月 7日	大教会長様	上 父	3月 7日	横山逸郎
芦 常	2月 5日	山野弘実	樺 島	月 3日	門脇元教	府世原	3月12日	大教会長様
芦加茂	2月 6日	岡崎真一	新輝豊	2月 3日	前会長様	神 驛	2月 5日	上原繁道
惠 陽	2月14日	中島誠治	亀田山	3月12日	森本忠善	葦 沼	2月 7日	杉原善朗
陽 實	2月12日	上原志郎	天場山	3月 8日	田林久嗣			